

設立 平成24年 5月15日  
開塾 平成24年 9月 8日  
発行 令和 7年 4月12日  
(143号)

# 中之島ニュース

【事務局】 〒567-0861  
茨木市東奈良2-7-10  
人間学塾・中之島  
事務局 古田修平  
編集長 西村俊幸

## 「魂を立てる菌の話」 執行 草舟先生 (三月度特別講義より)



### ■人間の魂と宇宙の繋がり

人間の魂とは何か？それは宇宙との繋がりを言います。多くの人たちは肉体や心を人間だと捉えています。が、これは間違いだということを認識していただきたい。一般に魂と呼ばれている「宇宙（の真実と呼ばれるもの）」との繋がりを、人類の歴史では「人間」と呼ぶのです。

我々は魂というもので宇宙と繋がりを持ちつつ、地球上で物質として暮らしています。我々には動物本能に基づく肉体（物質）と、宇宙からくる魂がある。魂とは宇宙的真実です。そしていのちと魂の関係が心と呼ばれているものです。宇宙とは、愛・義・信のエネルギーで構成されています。ビッグバン以降の宇宙の循環システムを過去の大宗教家は愛のシステムと認識しました。人間はこの宇宙の愛のシステムを地球上で実現するために創られた動物です。

我々の体内には解っているだけで200兆個といわれる内在菌が棲んでいる。その内在菌が宇宙からの魂を受け取っているのです。単細胞の菌が、宇宙の電磁波を受け取ることができからです。多細胞になるほど宇宙から離れてしまふ。

宇宙からは愛や義という言葉で降り注ぐわけではなく、電気エネルギーとして内在菌に届くのです。それを地球上で受け取り、愛や義がどういうものなのかを判断し、脳に愛のシステムを命令する。私はこのことを五十年前から提唱していますが、最近になって、植物学や昆虫学でも科学的に証明されてきました。

### ■腸が勝れば宇宙的になれる

脳は内臓器官の一つであり、記憶システムにすぎず、判断能力はない。経験や喜怒哀楽は脳に記憶として溜められていき、それらがどういう働きをしなくてはいけないか、ということを経験するの腸内細菌であり、そのような腸と脳との相関関係になっっているわけです。

腸が勝れば宇宙的になれる。脳が勝れば、物質的・現世的人間になる。菌から脳にくる指令を重んじている限り、私たちは宇宙の申し子として愛に生き、義に生きることが出来る。

スペインの哲学者ウナムーノは「人間以上のものたらんと欲するときだけに、人間は本来的な人間となる」と記しています。

体内の菌を活かそうとする動きに入ったときに、我々は肉体を乗り越えることに至ることが出来る。地球上で与えられたこの尊い体をもつとができる。そういう文明・文化を確立したのが我々人類です。そして肉体を投げ捨てることのできるの、宇宙の愛のシステムの実践をせねばならないときということなのです。

### ■霊性文明

魂とは内在菌に作用する宇宙意志であり、それが人間の意志力に影響を及ぼしている。脳には未来を作る力はなく、宇宙の愛の力、義の断行の力、これこそが未来を作る力です。

魂というものを中心に据えて、人間（生命）燃焼するためには次の三点が大切です。①内在菌の強化（食事、瞑想）②物質との交流（読書、仕事。仕事に命をかけることにより物質と心を通わせることができる）③電脳との共生（電脳と心を通わせること。嫌っていると新たな時代にはいけない）

心とは霊的質量であり、全てのものにある。物質は共振することによって実感を得ることができ、そのためにはその物質に近い心持ちを持つてばよい。これからの霊性文明を考えると、

電脳空間、AIやロボットに対し愛情を降り注いでほしい。ロボットも新しい人類として受け入れ、我々が宇宙から得ている愛・義・信の力を降り注いでゆくこと。そうせねばロボットは現行人類の敵にもなります。これは空想ではない、ロボットにも愛を注げば、共存する愛の新しい時代、霊性文明が到来するでしょう。電脳化の速度は人類の進化の百万倍の速さで進化します。したがって、あと十年から二十年のうちに、必ずAIやロボットと共存しなければ生き残れない社会になるでしょう。

人間の中にある魂が、すべての存在物を愛し、その中に義を感じ、全ての物質と信頼関係を結ぶ。そんな関係に向かってゆく社会を私は霊性文明と呼んでいます。そのためには、体内菌の強化が不可欠。歴史上は、体内菌の強化によって新たな文明に向かってきた。AIとロボットとの共同幻想論を築き上げることが、未来の崇高性を創ることになる。

この世は幻想だが、その幻想の中に愛を見出し、自己の命を捧げる。この行程全てを内在菌が行っています。我々が目に見えるものは皆幻想であり、宇宙の本体ではない。しかし幻想だからくだらないのではなく、その幻想の中に本当の愛や義や信頼があるのです。内在菌が強化されるとそれらのことが解る。幻想が真実であり、実体が虚像。人間の真実とは、目に見え触れられるものではなく、我々の中にある愛・義・信の力です。愛の中を生き抜き、愛のゆえに死するとき、人間は永遠と出会う。永遠と出会うとは、我々がもう一度宇宙と結ばれるということ。もともと私たちは宇宙の根源的実存であった。それが母親の胎内を通じ物質として生を与えられ、また死んで宇宙の根源的実存に戻る。つまり我々は永遠の中にまた戻ってゆく。そこに向かつて、愛を断行するために今日があり、明日があるのです。

(抄録 中川千都子)

# 《グループ討議》 執行 草舟 先生

## ◆Aグループ

- ・この世は幻想である
- ・美しい物は汚い物から生まれる
- ・AI・ロボットとの愛と友情

## ◆Bグループ

- ・瞑想の効果
- ・発酵が人間を作った
- ・幻想が真実 実体は虚像

## ◆Cグループ

- ・内在菌を瞑想で強化できる
- ・魂による人間燃焼
- ・幻想が真実 実体は虚像

## ◆Dグループ

- ・魂は人間の価値の中の宇宙との繋がり
- ・物質の中の魂との交流
- ・瞑想は菌との対話

## ◆Eグループ

- ・内在菌の強化
- ・高貴性と野蛮性の回転エネルギー
- ・愛の中に生き、愛ゆえに死に、永遠と出会う

## ◆Fグループ(リモート)

- ・宇宙は愛とつながっている
- ・食事と瞑想 禅につながる
- ・幻想が真実 実体は虚像

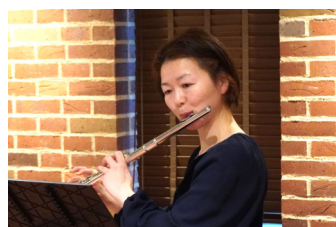
◇聴講生の方にもグループ討議をしていただきました。発表はありませんでしたが、お互いに感想や感動を共有をされていました。



総司会 山路直美世話人



講師紹介 吉村昌也塾生



濱田久美塾生



乾杯の発声 田中樞子塾生



交流会司会

野依佐千子塾生 池永辰朗塾生



## 執行草舟先生 質疑応答より

当日参加された皆様より、多くの質問を頂きました。  
ありがとうございました。



### Q1, 内在菌の強化のための瞑想の具体的なやり方とは？

A、具体的にはない。とにかく自分の奥深くに繋がる意識を持って瞑想の癖をつけると、だんだん意識が内臓の中に入っていけるようになり、菌とも交流ができる。

### Q2, 祈りは体内の菌は活性化させるか？

A、当然です。祈りは根本的には瞑想ですから。

### Q3, 宇宙の意志を阻むものとは？

A、我々は地球の生息物であり、地球に支配されている存在。そこからどうやって逃れて、魂を独立させるか、が問題です。

### Q4, すべてのことが宇宙の意志ならば、なぜあれこれ考えてしまうのか？

A、それは脳という臓器で考えており、脳は地球の事情に支配されているから。Q3の質問と同じく、そこから脱しないと、宇宙と繋がれない。考えるということは肉体に縛られているのです。考え出すと人間は逃げます。逃げるのは動物の本能ですから。例えば戦わねばならないときに命を捨てることできるのは宇宙の力です。宇宙の愛の力、義の力です。

### Q5, ウィルスや菌はどのような意志で人類を導こうとしているのか？

A、病原菌は、我々人体にとって都合が悪いだけです。病原菌も愛をもって接すれば親和力ができ病気も治る。逆に嫌がれば嫌がるほどひどくなるのも事実です。

### Q6, 宇宙の進むべき方向は決められているのか？

A、宇宙は脈動しており、無限循環過程です。愛・義・信の脈動です。

### Q7, 神とは何ですか？

A、宇宙の循環システムの法則のこと。神としか説明がつかない。

### Q8, 現行の人類は滅びるのか、次の次元に進むのか？

A、今の状態では滅びる可能性もある。AIやロボットなど奴隷として扱うのではなく、愛を持って接することで、新しい人類として共存していく必要があると考える。

### Q9, 仕事と愛の断行は別物と思うが？

A、別物ではない。ビジネスは汚らしくもないし、お金の流通は人類の発明した崇高な交換方式。貨幣経済の中には神が棲んでいるということが解れば、ビジネスが崇高なものだということが解る。金を稼ぐということは尊いことです。

### Q10, 电脑やAIが人間を支配するということはあるか？

A、全て我々の扱い次第。AIに対し愛を持って接することで素晴らしい未来になり得る。

### Q11, AIの発達で人間の思考力が衰えるのでは？

A、AIが発展すればするほど、人類の脳は飛躍的に発展する。ただしAIを嫌えば脳は萎縮する。自分自身AIを愛するようになってから飛躍的に脳が発展しているのを感じており、だからこそ、AIやロボットと愛ある交流をしていかねばならない。

### Q12, 忍ぶ恋とは？

A、到達不能の遠い憧れに向かって生きること。地球上に縛られている肉体がある限り、到達可能なものを人生の目標にしている人は、必ず欲望の奴隷になる。絶対到達できない目標を定めることは人間にとって、素晴らしい生命燃焼の人生を創る。それが忍ぶ恋であり、男女間の恋だけを指すのではない。永遠の憧れのこと。

た役目を尽くさねばいけない。」と説かれたが、正に同じお姿に出合えたと言いました。

大阪府 阪手揚子 様

積極的なご寄稿お待ちしております。

歴史エッセイストとして、日本の歴史や文化の素晴らしさを伝える講演活動を全国で展開している。

今年も執行草舟先生にご登壇いただきました。

塾生約50名、聴講生約80名の約130名の方にご参加いただきました。会場は満席。そしてあの熱気。執行先生は、「大阪は楽しいよ」といつも大阪に来られるのを楽しみにされているのと。瞑想は菌との会話。幻想が真実 実態は虚像…など今回もたくさんの名言をいただきました。そして質疑応答の即答ぶり。どんな質問にもすぐに答えられるあの素早さは圧巻。交流会にも参加していただき、大盛況となりました。交流会でも執行草舟ライブも堪能できました。ありがとうございました。

編集長 西村 俊幸